

まんだら通信

平成20年(2008)02月 佛誕2574年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
URL <http://www.awa.or.jp/home/ryusho/>
E-mail ryusho@awa.or.jp

『トランクの中の日本』

長崎ではまた次から次へと死体を運ぶ荷車が焼き場に向かっていた。死体が荷車に無造作に放り上げられ、側面から腕や足がだらりとぶら下がっている光景に私はたびたびぶつかった。人々の表情は暗い。

焼き場となっていた川岸には、浅い穴が掘られ、水がひたひたと寄せられており、灰や木片や石灰がちらばっている。燃え残りの木片は風を受けると赤々と輝き、あたりにはまだぬくもりがただよう。

白い大きなマスクをつけた係員は荷車から手と足をつかんで遺体を下ろすと、そのまま勢いをつけて火の中に投げ入れた。はげしく炎を上げて燃えつきる。それでお終いだ。燃え上がる遺体の発する強烈な熱に私はたじろいで後ずさりした。荷車を引いてきた人は台の上の体を投げ終えると帰っていった。だれも灰を持ち去ろうとするものはいない。残るのは、悲惨な死の生み出した一瞬の熱と耐え難い臭気だけだった。焼き場に一〇歳くらいの少年がやってきた。小さな体はやせ細り、ぼろぼろの服を着てはだ



しだった。少年の背中には二歳にもならない幼い男の子がくくりつけられていた。その子はまるで眠っているようで見たところ体のどこにも火傷の跡は見当たらない。

少年は焼き場のふちまで進むとそこで立ち止まる。わき上がる熱風にも動じない。係員は背中の幼児を下ろし、足元の燃えさかる火の上に乗せた。まもなく、脂の焼ける音がジュウと私の耳にも届く。炎は勢いよく燃え上がり、立ちつくす少年の顔を赤く染めた。気落ちしたかのように背が丸くなった少年はまたすぐに背筋を伸ばす。私は彼から目をそらすことができなかつた。少年は気を付けの姿勢で、じつと前を見つづけた。一度も焼かれる弟に目を落とすこととはない。軍人も顔負けの見事な直立不動の姿勢で彼は弟を見送ったのだ。

私はカメラのファインダーを通して、涙も出ないほどの悲しみに打ちひしがれた顔を見守った。私は彼の肩を抱いてやりたかつた。しかし声をかけることもできないまま、ただもう一度シャッターを切った。急に彼は回れ右をする、背筋をぴんと張り、まっすぐ前を見て歩み去った。一度もうしろを振り向かないまま。係員によると、少年の弟は夜の間に死んでし

まったのだという。その日の夕方、家にもどつてズボンをぬぐと、まるで妖気が立ち登るようになり、死臭があたりをたどった。

今日一日みた人々のことを思うと胸が痛んだ。あの少年はどこへ行き、どうして生きて行くのだろうか？

これは、敗戦直後の昭和20年9月から翌年3月まで、アメリカ海兵隊の公式カメラマンとして進駐したジョー・オダネルさんの文章です。

主に広島や長崎など西日本を中心に、当時のありのままの日本の姿を写して軍に提出しました。ほかに自分用のカメラで写したものは、あまりのショックから戦後半世紀近く、封印したトランクに入れたままでしたが、決心がついて出版したのが、日本では『トランクの中の日本』米従軍カメラマンの非公式記録(小学館99年)で、この写真はその一コマです。これに添えられた標題は『焼き場にて、長崎』ですが、一般には『焼き場に立つ少年』という標題で知られています。

インターネット上には、この写真や記事についての感想が御件もあって、如何に多くの人が関心を持っているかが分かります。

その感想の多くは、当然のように「だから戦争はしてはいけない」、「悲しみを表せないような軍国少年を育てた教育が悪かった」という意見が大多数です。

けれども、日本が武力を使わざるを得ないように追いつめたのはアメリカだったこと、中国との戦争も早く終わらせたかったことなども、アメリカの公文書や当時のアメリカの新聞記事などで今では分かっています。

では、領土を失った上に海外からの引揚げや復讐など、ゼロどころかマイナスから出発した日本が、これほどの豊かさになったのは何故でしょうか。

朝鮮半島のように分割統治されなかつたこと、朝鮮戦争の『特需爆発』で復興に弾みが付いたことなどの幸運もあるでしょうが、日本人の律義さや勤勉さ、日本人としての誇りではないでしょうか。約束を守ることや相手の気持ちを考えてやるということが、個人同士だけではなく国同士の貿易でも大切なことではないかと。



日の入りが遅くなったことが、ハッキリとわかるようになりましたが、朝の6時はまだ殆ど変わらず、薄暗がりのままです。

◆季節は確かに動いているのです。目を凝らすと、庭の木々は冬芽を膨らませてきましたし、ネコヤナギ【やなぎ科ヤナギ属】もご覧のように銀の綿毛をのぞかせています。

別名をエノコロヤナギ(狗尾柳)ともいうそうで、子犬のシッポに見立てた呼び名だそうです。

◆1月27日、麻生太郎さんがお話をするとのことなので、南総文化ホールに出かけました。意外にも満席どころか立ち見も出る有り様にビックリでした。

の日本を写した貴重な記録ですから、個人の持ち物ではなくお寺の蔵書として長く保存したいと思っています。

尚、ジョー・オダネルさんは、帰国後に原爆病が悪くなり、何十回も手術するという大変な苦勞をされたそうですが、去年8月10日アメリカ・テネシー州ナッシュビルで亡くなりました。

享年85歳。脳卒中だったそうです。

◆近頃、お寺の周りに群れを離れたサルの親子が来ます。寒いにお母さんも大変だろうと思うのですが、先き様はそんなこと気にしていないようで、落ちたトウジイ(マテバシイ)など探しては口に運んでいます。

親子の姿って傍目にも良いものです。

◆朝夕2回鐘を撞きます。夕方5時は

◆1月ってこんなにも早く過ぎてしまうのかと、今年初めて気付きました。既に立春が過ぎて、寒い寒いといいながら暦は既に春ですね。

『早春賦』の歌詞ではありませんが、何となく春が近づいた気持ちになるのが不思議です。

◆『トランクの中の日本』は、今では国中の古本屋さんにもなく、半年近く待ってインターネットの競売(ヤフーオークション)で先頃やっと手に入れました。15,000円でした。ところが今朝、何気なく覗いた、これもインターネットの本屋さんアマゾンに何と2,600円で売っていました。こちらはカバーもついている新品なので、迷わず注文してしまいました。敗戦直後

余滴

麻生太郎さんのお話

「朝 なま太郎」ではありません。(爆笑)
今、何となく株価が下がったりして、新聞など見ていると先行き暗い話が多いですね。

アメリカで個人向け住宅ローンが下がり、その影響がヨーロッパ、日本にも影響し株価が下がった。日本ではあまり影響を受けていないにも関わらず、健全であると発信できないでいる。これはどう考えてもおかしい。

貿易収支は黒字でも。日本では1月4日仕事始めになるとこの会社も、「わが社を取り巻く環境は厳しいものがある」という話が必要出てくる。税金は延びているにも関わらず日本の環境は厳しいという。

それを聞いた人がそんな厳しいところに投資しますか？ 外国から見てもそんな危ない会社に投資しません。

日本に対する評価はきわめて高いものがある。イギリスの国営放送BBCで「あなたは、世界で一番貢献している国はどこだと思いますか。」という調査をしたところ、2年続けて日本が一位だった。なぜこんなに評価が高いか。

お金の他に、技術とやる気が違います。二つの例を上げてみましょう。

南米にホンジュラスという国があります。ここに青年海外協力隊が行っています。

この国の子供はなぜこんなに勉強ができないのだろう。特に算数ができない。別に自分たちの仕事ではないのですが皆で考えたそうです。そこで教科書が悪いと気が付き、隊員みんなで考えて教科書を作り直した。

3年もしたら子供達の成績は上がり学校に来るようになった。ホンジュラスでは、初めての国定教科書にしたそうです。青年海外協力隊の人達は自分の仕事とは関係のないことですが、ボランティアでやっている、これが日本の底力です。今どきの若いものと言われますが、その今どきの若いものがやっています。そんなこと日本の新聞などにはありません。

次にシルバールボランティアです。山梨の耕耘機などを作る会社の社長さんが、カンボジアでは地雷でたくさんの方が死んでいる現状を聞いた。今、自衛隊を退官した人などがボランティアでその作業をしている。そこで自分たちの力で何とかできないかと考え、地雷を安全に取り除く機械を考えたとそうです。

それが今カンボジアで活躍している。高齢者が活躍している。こういう積み重ねが日本の評価を高くしているんです。この日本のもっている力、

働く力だと思ふ。

宗教も、キリスト教・イスラム教・ユダヤ教とありますがこれは旧約聖書の教えを元にしています。

旧約聖書の中に、あの有名なアダムとイヴの話が出てきます。約束を破った罰として労働をさせられる。あちらでは労働は罰なのです。片や日本は土着宗

教の国です。神道の場合、古事記に出てきますが、高天ヶ原を眺めれば、神々が野に出でて働いているとあります。神が行うから善、片や罰です。

外国では退職祝いには『出所祝い』です。神々に見放された感じですね。

よく日本人は働き過ぎといわれますが働き過ぎでもなんでもありません、この頃の休日の多いこと。働くということは強みです、

インドのニューデリーに地下鉄がありません。デリー・メトロですね。

日本のODAでできました。地下鉄の入りに大きな看板があつて、「この地下鉄は日本の援助でできました。」と大きく書いてあります。

「総工費の75パーセントが日本の援助です」というグラフの中に、大きな国旗が貼つてあります。誰が見ても日本の援助とわかります。

案内してくれた人が話してくれました。日本人に教わった言葉は「納期」。

それだけだったそうです。約束は果たす、何といても納期までといつて働き、何と約束の2ヶ月半前に完成したそうです。

それに日本人の指導のもと、時間通りに走っているのは数多い交通機関でこの地下鉄だけです。約束は果たす、働く、労働に対する美学です。

日本は評価されているか。最終便の地下鉄で酔って寝てしまつても、殺されたり、盗まれたりしない。

夜11時過ぎに女性が公園歩いているなんて、アメリカでもイギリスでも考えられない。それほど治安の良い国なのです。自動販売機が屋外に堂々と置いてある国なんて他にない。

それから、日本は観光資源がたくさんありながら、観光客を呼ぶ資源が無いと思つている。

和倉温泉の例です。20何年か日本一という旅館があります。ただの普通の温泉です。ゴルフ場と白い

砂浜があるだけの、何の変りもない温泉です。

お客さんは7割が外国人です。

中居さんに、英語中国語を教えて、今では台北や上海、北京からのお客さんだそうです。沢山の言葉はいりません。お話し替えはとか、お風呂とかいくつかの単語を知っているだけです。

でも日本の清潔さ、サービスと治安の良さで人気をよんでいるそうです。これは館山でも役に立つことですよ。食べ物、浮世絵、外国から評価されているものはたくさんあります。

今ニューヨークでは寿司が人気です。『トロ』は日本語の『トロ』、ご飯は『シャリ』だそうですね。

自国の文化に絶対の誇りを持っているフランス人。でも『まんが』はやはり『マンガ』だそうですね。

自衛隊が海外派遣されたとき、あちらの人に、是非残つて欲しいといわれたそうです。なぜ日本だけ残つてほしいのか、分かれますか。聞いてみたところ、先ず、脱走兵がない、それと婦女暴行がない。無銭飲食がない。日本では当たり前なことですがそれが違うのです。

世界では謙譲の美德が通じるとは限りません。いつまでも、わが社を取り巻く環境は・・・ばかりでなく、こういうことをやっています、こういうことをやりたいといつても良いのではないのでしょうか。インドネシア、フィリピンなど日本の支持率は高い。

自分の国がやっていること、自分の会社がやっていることに自信を持ってほしい。日本の農業が築いてきたもの、安全で美味いものを作る、自信をもって利益にして行く。

一つも暗くなるものはありません。温暖化、温暖化と言うが、温暖化のお陰で北海道は米がうまくいった。

前向きに考えていく事が大切です。この国に生まれて良かった、この国のために頑張りたいといえる、そんな日本を作つて行きましょう。

折角のよい話を独り占めするのは勿体ないので、当日の録音を家内に文書化してもらいました。約1時間のお話の要約版です。

